

## イベント広場(7・8月)

### 【7月】

- 4日・18日(金) 9:30～ ファミリープログラム
- 4日・18日(金)13:30 いっぽの会茶話会 (オープニングルーム)
- 25日(金) 元気のひろば (グリーンホール)  
ゲスト：ピーイングスペース萌 『リカバリーストーリー』

### 【8月】

- 1日(金) 9:30～ ファミリープログラム
- 1・15日(金)13:30 いっぽの会茶話会 (オープニングルーム)
- 2日(土)10:00～12:00 講座『**統合失調症 病気とその理解**』  
講師：橋本卓哉医師 (グリーンホール)
- 19日(火)15:20～ 退院支援委員会主催ミニ学習会  
『**調剤薬局の機能と訪問調剤の現場から学ぶ**』  
講師：梅山暁生 管理薬剤師 (北野調剤薬局 高尾店) ※職員向け
- 22日(金)13:30 元気のひろば (グリーンホール)  
ゲスト：グループホーム くぬぎの杜

## 6月28日(土)グリーンホールにて 講座「**発達障害(神経発達症)の基礎知識**」 が開催されました

昨年度に引き続き、発達障害(神経発達症)についての講座を、吉田奈緒美医師を講師にお迎えして、6月28日(土)に開催いたしました。当事者5名、御家族14名、地域支援者8名、当法人職員5名、計32名に御参加いただきました。裏面に、当日お答えできなかったご質問へのQ&Aを抜粋して掲載しております。

## 統合失調症講座 開催のお知らせ

来る8月2日(土)、「統合失調症 病気とその理解」をテーマとして橋本医師に講義をしていただきます。A棟グリーンホールにて10時から開催致します。当院並びにいこまに通院・入院されている方、そのご家族、また地域関係者の方や当院職員の参加もお待ちしております。



駒木野病院 SSK主催  
本人・家族のための講座

### 「統合失調症 病気とその理解」

統合失調症の症状・病気を理解し、治療の内容を正しく知ることが回復への第一歩です。今回は当院精神科医が統合失調症について講義をします。持続性注射剤(LAI)やクロザピン治療についてもお話して頂きます。

日時：2025年8月2日(土)  
開場 9:45 講演 10:00～12:00

場所：駒木野病院 A棟 グリーンホール  
(定員30名・予約制)

講師：橋本 卓哉 医師

対象：当院に通院・入院中のご本人とそのご家族  
地域支援者の方

参加費：300円 当院へ通院・入院中のご本人は無料となります

お申し込みは SSK (サービスステーション駒木野) まで  
042-673-7034(直通)  
042-663-2222(代表)  
ご了承ください。

※会場が変更になる可能性や、感染症状況(天候等)によって開催や参加に制限がかかる場合がございます。

代表番号にお掛けの際は、音声カ(カ)スが流れたら6番を押してください。

## 「元気のひろば」から (文：元気のひろば担当,児玉)

皆さん、こんにちは！今回のゲストはルーチャから来ていただきました。なんと今回は、いつも通りにゲスト3名からリカバリーストーリーを話していただいただけでなく、ルーチャで実際に行われている話し合いのプログラムを実践していただきました。テーマは「通院時の待ち時間にどうやって過ごすのが良いか？」です。テーマを提供してくださったスピーカーさんは「普段は待ち時間にイラストを描いているが、もっと良い過ごし方があれば参考にしたい」と皆にお題を振りまきました。話し合いにはルーチャのメンバーや職員だけでなくオーディエンスからも飛び入り参加、更にその輪を取り囲む形で他のオーディエンスや私達駒木野のスタッフも参加。案として出たのは「看護師と会話する」「待合室の音楽や絵画を楽しむ」「スマホでゲームしちゃう」「スマホで調べ事をする」など様々。ちなみに私は「次の予約をいつにしようか、スケジュールをチェックする」という案を出しました。



また、ルーチャはスポーツも盛んでウォーキングサッカーやボッチャなどもメンバーさん達が運営しています。八王子市の大会にも出ているそうです。スピーカーさん曰く、「他人とスポーツする時って、相手にすぐく気をつかうんですよ」とのこと。で、(コミュニケーションの練習にもなってるんだ)と、私は目から鱗でした。スポーツクラブの運営はマネジメントから競技の参加まで、色々な面があって、たくさんのが学べるんですね。自主性を重んじるルーチャらしい活動だなと思いました。これからも頑張ってください。ありがとうございました！

2025年6月28日に当院で開催いたしました「発達障害(神経発達症)の基礎知識」講座にご参加いただき、ありがとうございました！皆様からたくさんのご質問をいただき、吉田奈緒美先生が丁寧にお答えくださいました。

**Q1** 子供のときにチェックリストがかなりひっかかるのですが、大人になってひっかからない、自分は、ADHDではないのですか。

講座内で紹介した「成人期のADHDの自己記入式症状チェックリスト(ASRS-v1.1)」は、これだけでADHDである・ないを診断できるものではありません。説明に書いてあるように「医師に面談する際にこれを持参し、回答結果について相談して」いただくのが望ましいです。

なお、講座内で紹介したDSM-5という診断基準では、症状があるだけでなく「症状が**社会・学業・職業機能を損ねている**明らかな証拠がある」ことが診断の条件として挙げられています。つまり、症状があるだけでなく、症状のために学校や職場・社会的な場面で重大な妨げがある時にADHDと診断されます。ADHDの特徴を持っていたとしても社会参加に困りごとがなければ、ADHDの診断名はつきません。また、子どもの頃にみられた多動・衝動性が、大人になるにつれて目立ちにくくなると言われることもあります。

**Q2** 治療の3本柱をもう一度教えて下さい。自己理解や対処を身につけていくようにする、医療に頼ることが重要な1つであると思いますが、それを避ける人の場合は、カギとなるのは何かありますか。

「治療の3本柱」として講座内で紹介したのは「①自己理解 ②環境調整 ③薬物療法」でした。これは、ある精神科医(原田剛志 医師)が、総合診療医向けの本(Gノート vol.6-no.8・2019年)に書いたものです。(治療上何を柱にするのかは医師によって差があります。)原田医師は「特に成人の発達障害の場合、『自己理解』は治療を進めていくうえで重要なポイントになります。(中略)どんな認知特性、行動特性、記憶様式があるのか特徴を十分に理解することが適応力の向上につながると考えられます。」と書いています。ご本人に合った②環境調整は、ご本人自身の自己理解の上に成り立つものですし、③薬物療法を実施するにも、ご本人が何に対して薬物療法を行いたいのか目的の整理は必須であり、それには自己を俯瞰することと自己理解が必要です。

医療に頼ることを避ける理由は人それぞれかもしれませんが、自分は困ってない(周りは心配しているけれど…)かもしれないし、人を信頼することができず警戒心や不安があるのかもしれないし、他の理由かもしれないし…。まずは、ご本人がヒトと繋がることを「悪くはないかな」と思えるような関わりを心掛けることが糸口になるのでは、と考えられることは多いように感じます。

**Q3** ASD、ADHD というのは親の遺伝があるのでしょうか。



遺伝の影響も一部にはありますが、遺伝が全ての原因ではありません。

ASDに関連するとされる遺伝子は多く指摘されています。自閉症は特定の1つの遺伝子に原因があるのではなく、複数の遺伝子の影響によって発生することが多いと言われており、親から受け継がれず子ども自身で新しく発生した遺伝的変異が関係していることもあります。

親がADHDの場合、その子どももADHDである可能性は、ADHDでない親と比べて5~10倍高い、とする研究報告もあります。ADHDと遺伝は関係あるのではと推測されているものの、特定の遺伝子は発見されていません。ADHDは遺伝だけが原因ではなく、経済的背景など環境要因が組み合わさって発症する、という考え方が主流です。

**Q4** 当人の自己理解や障害特性理解を促進する為に、支援者はどのように対応したらよいか、ポイントは何か教えて下さい。

可能であれば、ご本人の困りごとや不自由に思っていること、上手くいかないこと、変えていきたいと思っていることについて、率直に話し合えると良いですね。その話し合いの中で、ご本人の思考パターン(認知)を特定し「あなたはそう考えている・感じるのですね。私はこう考えて・感じています。あの人はこう考えて・感じるかもしれません。」など、漠然とではなく、具体的に、他者の視点について解説することが、ご本人の自己理解に繋がるかもしれません。

**Q5** 訪問している方で、コミュニケーション障害だけが明らかな方がいます。接していても他のADHD、ASD等の症状はなさそうな印象です。その場合でも神経発達症と考えて良いのでしょうか？本人も人と話す事、関わる事がとても苦手と言われています。

神経発達症、特にASDでは「コミュニケーションが苦手」なことが特徴です。しかしASDだけでなく、知的能力障害でも、社交不安障害でも、あるいは他の理由でも、コミュニケーションが上手くいなくなることはあると思います。コミュニケーション障害以外の困りごとや、その他の特徴はないか、ということも含め、その方の全体をみて判断する必要があると考えられます。